

世界海上保安機関実務者会合を開催 (Coast Guard Global Summit Working Level Meeting 2018)

海上保安庁と公益財団法人日本財団は、11月27～29日までの間、世界66の国および国際機関など（58カ国、8国際機関）から海上保安機関の実務者が一堂に会する「世界海上保安機関実務者会合」を東京・品川プリンスホテルで開催した。

本会合は、昨年9月に開催された「海上保安機関長官級会合」の議長総括において、実務者レベルの会合を開催することが決定したことを受けて開催されたもので、11月28日に開催されたプレナリー会合では、「情報共有手法の検討」、「海上保安国際人材育成」、「会合運営ルールの策定」の3つのテーマについて意見が交わされた。

この「世界海上保安機関実務者会合」の開催あたり、当協会は公益財団法人日本財団からの委託を受けて、参加者の招聘や、会場の手配・準備などに係る支援業務を実施した。



オープニングリマークス（開会の辞）
海上保安庁 上原 淳 総務部長（左から6人目）
日本財団 海野光行 常務理事（左から5人目）



プレナリー会合では、世界66の国と国際機関が一堂に会し、意見交換が行われた



フォトセッション 世界海上保安機関実務者会合の参加者（58カ国、8国際機関）